

# 滋賀県中山間地域振興の手引き

簡易版



地域での話し合いから始めよう！！

## 目次

1. 滋賀県中山間地域の課題と手引きの目的 .....	1
2. 本手引きにおける中山間地域が目指す姿 .....	2
3. 手引きの使い方 .....	4
4. 中山間地域の10の振興策とその方法の概要 .....	11

参考1：振興策別事例一覧 .....

資料 1

参考2：地域での話し合いで活用できるシート .....

資料 4

①地域診断シート（3項目分） .....

資料 4

①' 地域診断結果記録（レーダーチャート） .....

資料 7

②地域資源発掘シート .....

資料 8

③課題の抽出・「こうなりたい」シート .....

資料 9

④振興策の検討シート .....

資料 10

### ～ 想定される手引き、簡易版の活用の仕方 ～

この手引き簡易版は、手引きが提供する検討のシートの使い方を中心に、手引き本編で示す振興策やその方法の概要、事例集の一覧などを紹介することで、詳細な解説を掲載する本編の該当箇所を簡単に見つけられるようにしています。

そのため、**手引き本編と一緒に活用**していただくことを想定しています。本編は県ホームページからダウンロードすることもできます。

なお、簡易版には、話し合いに活用する4つのシートの原本も掲載しているため、地域診断と地域資源発掘の現状分析は、この簡易版だけで取り組むことが可能です。

# 1. 滋賀県中山間地域の課題と手引きの目的

琵琶湖を含めた県域の56%を占める中山間地域※には、16%の県民が生活しています。その中山間地域では、人口減少、高齢化による人手不足に加え、獣害が暮らしや農林業に大きな影響を与えています。

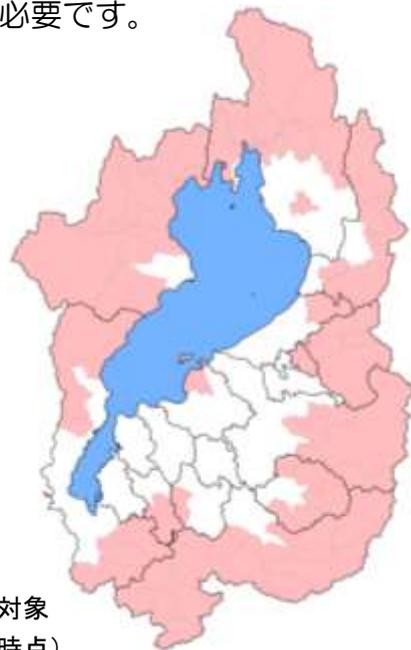
各種統計や既存の中山間地域を対象とした現状調査の結果を踏まえると、人に関わる課題、暮らし（社会）に関わる課題、産業（経済）に関わる課題があげられます。

また、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、地元へUターンして働く人や地方で働くことを望む人が増加しています。このような全国的な田園回帰の傾向は、中山間地域の振興には追い風と言えることから、課題の解決を各地域が考えていく際に、この流れをうまく捉えていくことも必要です。

そこで、中山間地域に存在する地域資源の活用や、地域の問題の解決についての話し合いを助ける情報を集めた「中山間地域振興の手引き」を取りまとめました。

※ここで言う中山間地域の対象

特定農山村法、山村振興法、  
過疎法等の地域振興立法指定地域と、  
農業地域類型第1次分類「中間農業地域」  
「山間農業地域」



中山間地域の対象  
(令和4年度末時点)

課題（社会）

## 暮らしの環境を良くして 集落を次世代につなぎたい

暮らしの環境を良くするためには、農地を保全し、  
獣害などの解消が必要。

課題（人）

## 1人1人の負担を 軽くしたい

集落機能を維持し、農業を継続するには、地域を管理する人手を確保することが必要。

耕作放棄地が増え  
獣害により営農意欲が  
低下

人手がない

地域でより  
稼ぎたい

課題（経済）

## 地域資源を活かし 収入を得たい

農業の収益性を向上させるため、  
地域資源の価値を見出し、  
収入に変えていく力が必要。



## 2. 本手引きにおける中山間地域が目指す姿

中山間地域は、食料の供給だけでなく、豊かな自然や景観を有し人々の憩いの場となると共に、水田は天然のダムとして下流の洪水防止、水源涵養に貢献するなど、様々な多面的機能<sup>\*</sup>を有し、極めて重要な役割を担っています。この多面的機能は、中山間地域での農林業を含めた人々の営みが継続することによって発揮されるものです。

このことから、本手引きでは、「中山間地域での人々の営みが継続され、多面的機能が未来に引き継がれる」ことを目指す姿とします。

また、この目的の達成のために、先にみた中山間地域での課題に対応し、地域と関わる「人のすそ野」を拡大する「人」の視点、豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ「社会」の視点、経済活動としての農業の競争力を高める「経済」の視点を設定します。

この三つの視点のもとに、それぞれを達成するための「中山間地域の10の振興策」を構成します。

### 人々の営みが継続され 多面的機能が未来に引き継がれる



※多面的機能とは：「国土の保全、水源の涵養（かんよう）、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能」のこと。

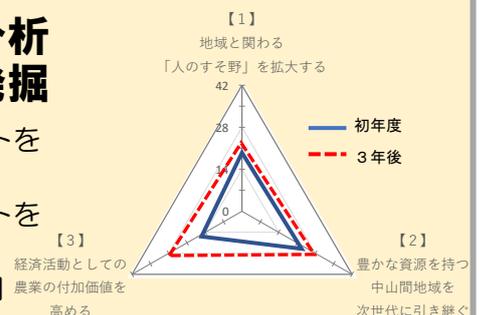
### 地域での話し合いから始まる

地域で話し合うことで、地域にあった振興策を見つけ、協力して活動することができます。この手引きは地域の方々の話し合いの際、参考にされることを想定しています。



### 地域の現状分析 地域資源の発掘

地域現状分析シートを使って課題を共有  
地域資源発掘シートを使って資源の確認  
などツール活用



# 中山間地域の10の振興策

## 経済 経済活動としての農業の付加価値を高める

振興策 7  
担い手に農地を  
集める

担い手を  
確保する



振興策 8  
コストを下げる  
(省力化・低コスト化)

生産コストが  
下がる



振興策 9  
収益の上がる  
作物を生産する

収益が  
上がる



振興策 10  
新たな収入源を  
つくる

所得が  
上がる



## 社会 豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ

振興策 4  
住み続ける条件を整える

いつまでも暮らせる



振興策 5  
近隣集落と連携する

協力しあう人が増える



振興策 6  
農地の使い方を変える

農地を荒らさず活用できる



## 人 地域と関わる「人のすそ野」を拡大する

振興策 1  
農地を守る人を確保する

次の時代も  
農地が活用される



振興策 2  
一緒に支える人を受け入れる

地域を支える人が  
増える



振興策 3  
地域に関わる人を増やす

多様な形の応援者(ファン)  
が増える



地域での振興策の  
話し合いで  
事例集・制度紹介  
の活用

### 振興策ごとの事例集

滋賀県内の事例を中心に  
80を超える事例から  
地域にあった具体的な  
振興策を検討

### 役立つ制度紹介

中山間地域の振興に有効な  
事例で紹介された制度等の  
概略を紹介

# 3. 手引きの使い方

手引きは  
どうやって  
使うの？



1 ⇒ 4の順番で手引きの活用を進めます。

## 1 まずは役員で、地域の状況を診断し、地域資源を発掘する

なんとかしないと！



地域診断シートの点数の高低を知ること、地域での更なる取り組みの余地がどこにあるかを考える際に役立ちます。



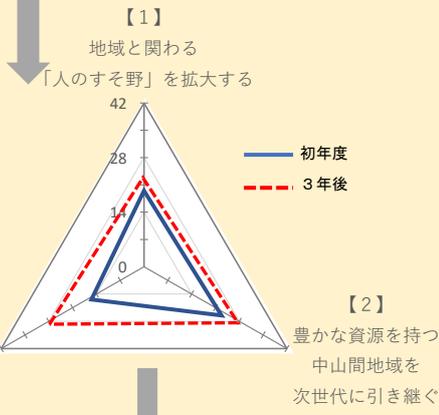
書記を決めて1枚のシートに記入します。

**シート①**  
地域診断

**シート②**  
地域資源発掘

地域の現状が客観的にわかるツール

得点記入



①～④の各シートの使い方は本簡易版 6 頁～10 頁を参照。 **診断結果** **地域資源発掘**

## 2 診断結果等を見ながら課題の抽出と10の振興策と事例集を参考に「こうなりたい」を話し合い

こうなりたい！



手引き本編「10の振興策」（第2章）や「振興策別事例集」（第4章）を参考にしながら、地域資源を活用できるアイデア出しをして「こうなりたい」の欄を埋めます。

10の振興策

振興策別事例集一覧

振興策別事例

テーマ	診断得点	課題	こうなりたい
地域に関わる「人のすそ野」を拡大する	42	課題の抽出・「こうなりたい」	
豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ	42		

**シート③**

本簡易版 11 頁からの「中山間地域の 10 の振興策とその方法の概要」、資料 1～3 頁の「振興策別事例一覧」を参照。

※地域資源や課題等が明確な地域では、2 から始めることも可能です。

### 3 具体的な振興の 取り組みを話し合う

みなさんに提案して  
やってみよう！



事例で紹介した  
制度等

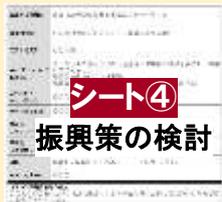
手引き本編第5章  
「事例で紹介した  
制度等」も参考に  
しながら、取組の  
具体的な内容を話  
し合って埋めます。

実践する振興策	農業体験等の参加者と地域の課題を共有
具体的内容	〇〇大根保存プロジェクト：農業体験会
活用する資源	〇〇大根
実行するために必要なこと	ターゲットである〇〇に開催趣旨と体験に来てもらう、受け入れのため、 <b>シート④</b> 準備。体験者との <b>振興策の検討</b> するための〇
実施体制・ネットワーク	〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、
活用できる制度	〇〇〇
継続性 スケジュール	5年間は開催し、関係人口の定着を図る 〇年〇月から実践に向け、事業計画作成
事業費 (費用項目)	〇〇〇〇円 (〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇
目標	継続して応援してくれる人 5年後
参考になる事例	〇〇〇
行政や外部有識者等の意見 〇〇大学〇〇先生から、体験会後のつながりを保ち育みたいとのアドバイスあり。	

本簡易版 14 頁「事例で紹介した制度等」を参照

### 4 地域で話し合い 振興策を 取りまとめる

みんなでまとめる



この時点で  
行政や有識者の  
助言を求める  
ことも有効です。



**ワークショップ方式-本編第3章-10~12 頁**  
ワークショップ方式で話し合いを進める方法も  
紹介しています！

ワークショップ方式を導入する場合、  
1~2をワークショップ形式で、  
その結果を踏まえ、3は役員で検討し、  
4はみんなで話し合います。



## 3つのテーマの診断項目（4段階で回答）

### 1. 地域と関わる「人のすそ野」を拡大する

1	集落での話し合い、頻度	8	都会から定住を進める取組
2	農業・農村に関する組織の構成（農業組合など）	9	農業の後継者を育成する取組
3	農業の担い手	10	地域おこし協力隊の活用等外部の人材の受け入れ
4	女性の活躍	11	フェイスブックやかかわら版など地域の魅力の発信
5	企業・大学・NPO 法人等多様な主体と集落との関わり	12	たんぼのこ事業、やまのこ事業等農林業体験学習受け入れ
6	森林保全の取組	13	棚田ボランティア等農林業ボランティア受け入れ
7	障がい者の雇用や福祉事業所との連携等の取組	14	その他外部の人材を活用する取組

### 2. 豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ

1	近隣集落との共同の拠点（スーパー、病院など複数サービス機能）を設置	8	用排水路等を長持ちさせるための点検・補修
2	高齢者への福祉活動コミュニティサロンなど集落内の談話の場	9	子供達等、次世代育成の取組
3	獣害対策	10	近隣集落と連携した地域づくり活動などの取組
4	伝統的な祭り・文化・芸能の保存	11	農業機械オペレーターの融通など営農面での近隣集落との連携・統合の検討
5	集落内の環境美化活動・実施	12	地域の利便性向上（交通・買い物など）のための取組
6	若者、女性など地域住民の草刈、泥上げ等共同活動への関わり	13	作目転換等耕作放棄地を発生させない取組
7	農道・用排水路法面の草刈、維持補修	14	耕作放棄地の有効利用

### 3. 経済活動としての農業の付加価値を高める

1	農地集積にあたり、農地の受け手の選定に対する地主の意識	8	伝統野菜の作付
2	耕作者間での利用権を交換する等、担い手ごとのエリア分け	9	「環境こだわり農産物」、棚田米等ブランド化の推進
3	営農組合等の組織化	10	転作の有無（ソバ、麦、大豆等）
4	（水路更新、畔抜き等）担い手が耕作しやすい条件整備	11	水田での野菜・果樹等高収益作物への転換
5	ほ場整備等生産基盤の強化	12	農産物加工、直売所等の6次産業化の取組
6	暗きょ排水等乾田化	13	体験メニュー提供や、農家レストラン農泊などの取組
7	自動田植機、自動草刈機、ドローン等スマート農業、林業の導入	14	間伐材のチップ化など、その他の地域資源を活用した取組

## ②地域資源発掘シートの使い方

このシートで5つの資源タイプごとに具体的資源例を参考にチェックしていくことで地域の資源を発掘します。役員等数名で作業する場合には、各自シートを見ながら話し合って1人が記入して作成します。

地域住民でワークショップをする場合は、数人グループに分かれ、各グループで作業して、後でグループの資源を合わせていきます。

### 地域資源発掘シートの特徴

- シートがあればすぐに地域資源の発掘ができる  
(資源タイプごとに代表的な例示があり、それに丸をするか、固有の資源は欄に記入する)
- 振興策事例集に示された「活用した地域資源」と照らし合わせてヒントが見つかる。

地域資源発掘シート (資源のタイプ)

資源タイプ	資源タイプ小項目
自然資源	野生生物、景観、水資源、植物、エネルギー資源
人工資源	伝統野菜、加工品（農林水産）、伝統技術、農地、農作物、山村資源、体験・交流、団体、建造物、中間生産物、観光地
人的資源	技術資源、関係資源、担い手、外部人材若い世代、出身者
社会関係資源	共同扶助
文化資源	伝説、神事、祭事、風習、芸能、歴史

### 地域資源発掘のチェックの仕方 (イメージ)

例示にあるものは○、ないものは右の欄に記入

人工資源	伝統野菜	山田ねずみ大根、下田なす、杉谷なすび、杉谷とうがらし、水口かんばんよう、船河菜、口野菜、北之庄菜、豊浦ねぎ、小泉紅かぶら、赤花のやまいも、赤丸かぶ、 <span style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px;">伊吹大根</span> 、万木かぶ、近江かぶら、坂本菊、守山穴島かぶら、弥平とうがらし、大蔵かぶら など	ヨモギ
	加工品 (農林産)	あまんぼう (干し柿)、むす加工品、山椒の佃煮、 <span style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px;">ふきのとう味噌</span> 、秋所茶 (新茶まつり)、 <span style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px;">橋もち</span> 、 <span style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px;">ミョウガ漬物</span> 、ナスとキュウリ畑漬け、山菜の卵の花漬け、山菜の塩漬け、チヨロギの甘酢漬け、糍・味噌・酒などの農産物加工	梅干し

### ③課題の抽出・「こうなりたい」シートの使い方

このシートは、地域診断シートの得点を記入し、点数の高低で地域での更なる取組の余地がどこにあるかを考える際に役立ちます。

**得点の低いテーマを中心に、その項目の取組を進めるのには何が課題なのかを**、地域診断シートの結果と見比べながら話し合いを行い、課題を抽出していきます。また、その課題を解決してどうなりたいのかを、手引き本編の「第2章 中山間地域の10の振興策」や「第4章 振興策別事例集」を参考にしながら、地域資源発掘シートに記載された地域資源の活用も踏まえてアイデア出しをして「こうなりたい」の欄を埋めていきます。(本簡易版 11 頁以降にも概要あり)

③課題の抽出・「こうなりたい」シート

テーマ	診断得点	課題	こうなりたい
地域に関わる「人のすそ野」を拡大する	42		
豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ	42		
経済活動としての農業の付加価値を高める	42		

診断結果の低いテーマは何が要因となっているか課題を整理します。

課題解決するための振興策を探り、その事例と、発掘シートの資源を見ながらできそうな取組を出し合います。

**①地域診断シート**

**②地域資源発掘シート**

**滋賀県中山間地域振興の手引き**

## ④振興策の検討シートの使い方とその後

このシートは、③の課題の抽出・「こうなりたい」シートの内容を実践に移せるように検討し、地域が取り組む振興策としてまとめていくためのシートです。

**あらかじめ役員会でたたき台を作成して**、それをもとに住民が集まった場所での検討をイメージしています。たたき台を作成する際には、手引き本編「第5章 事例で紹介した制度等」も参考に、検討します。（本簡易版 14 頁に事例で紹介した制度等一覧あり）

地域住民で検討することで、役割分担など体制についても合意を得ながら進めることができます。また、具体的なスケジュールも話し合います。

### ④ 振興策の検討シート

実施する振興策	農業体験等の参加者と地域の課題を共有する
具体的内容	〇〇大根保存プロジェクト：農業体験会の開催
活用する資源	〇〇大根
実行するために必要なこと	ターゲットである〇〇に開催趣旨と体験会の情報を発信し、体験に来てもらう。 受け入れのための体制準備。 体験者との関係が次につながるための〇〇〇を提供する。
実施体制・ネットワーク	〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、
活用できる制度	〇〇〇
継続性 スケジュール	5年間は開催し、関係人口の定着を図る。 〇年〇月から実践に向け、事業計画作成、補助金申請（〇月）・・
事業費 （費用項目）	〇〇〇〇円 （〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇）
目標	継続して応援してくれる人 5年後：〇〇人
参考になる事例	〇〇〇
行政や外部有識者等の意見 〇〇大学〇〇先生から、体験会後のつながりを保ち育てるために〇〇〇をした方が良いとのアドバイスあり。	

この検討シートで地域の振興策がある程度決まってきた段階で、**行政や有識者等の第三者に助言を求めるとも有効**です。活用できる制度の最新情報や、連携できる団体情報など、積極的に聞いてみます。

そのうえで、地域の振興策の実施計画として取りまとめます。



## 4. 中山間地域の 10 の振興策とその方法の概要

10 の振興策と各方法の概要から取り組んでみたい振興策をチェックしましょう。

### 人 地域と関わる「人のすそ野」を拡大する

#### 振興策 1 農地を守る人を確保する

次の時代も農地が活用される



集落の将来について話し合い、地域の人材を育て、集落ぐるみで農地を守ることが重要です。  
そのための、営農組織の運営方法や人材の確保の方法を紹介します。

方法 1  集落の将来について話し合う



方法 3  人材を確保する



方法 5  地域農業の担い手に女性の力を活かす



方法 2  集落ぐるみで営農組織を運営する



方法 4  地域を支える人材を育てる



#### 振興策 2 一緒に支える人を受け入れる

地域を支える人が増える



企業・団体等と連携し、また、移住者の受け入れに取り組むことで一緒に地域を支える人が増えます。  
そうした環境を整える際に活用できる制度などを紹介します。

方法 1  企業・団体等と連携する



方法 3  農福連携に取り組む



方法 5  移住者を支える仕組みをつくる



方法 2  「やまの健康」に取り組む



方法 4  多様な人材を活用する



方法 6  協働する人を受け入れ、思いを伝える



#### 振興策 3 地域に関わる人を増やす

多様な形の応援者（ファン）が増える



「観光以上、移住未満」の立場で地域を応援する「関係人口<sup>\*</sup>」という考え方があります。  
地域の魅力とともに、課題解決のために「関わってほしいこと」を発信していく方法を紹介합니다。

方法 1  農業体験等の参加者と地域課題を共有する



方法 2  クラウドファンディングなどの応援者を集める仕組みを活用し地域の取組を伝える



方法 3  中山間地域の魅力を発信する



<sup>\*</sup>関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す。

# 社会 豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ

## 振興策4 住み続ける条件を整える

いつまでも  
暮らせる



生活サービス機能の確保や獣害対策などにより、地域でいつまでも暮らせる環境が保ちます。

住み続ける条件を整えるために有効な地域での取組を紹介します。

方法1   
生活サービス機能等を集約した「小さな拠点」を形成する



方法3   
獣害対策に取り組みくらしを守る



方法5   
美しい風景・景観を守り育てる



方法2   
暮らしのお困りごとに対処する



方法4   
コミュニティを強化する



方法6   
学校と連携して地域の意識を高める



## 振興策5 近隣集落と連携する

協力しあう人が  
増える



近隣集落は同様の課題を持っている場合が多く、単独で対処するよりも相互に補うことが、効率的です。

解決したい課題の話し合いや、広域化・共同化を進める方法を紹介します。

方法1   
共通する課題で近隣集落と連携する



方法2   
日本型直接支払制度の取組を広域化する



方法3   
学区単位でコミュニティ組織をつくる



方法4   
棚田地域振興法の仕組みを利用する



## 振興策6 農地の使い方を変える

農地を荒らさず  
活用できる



獣害や人手不足により、維持できない農地が出てくる場合があります。

そうした場合の、作目転換や、復旧困難な農地の活用について紹介します。

方法1   
作目の転換：  
山菜等を植える



方法2   
作目の転換：  
果樹を栽培する



方法3   
農地を獣害対策の緩衝帯・集落景観用地として活用する



方法4   
復旧が困難な農地の活用を図る



## 経済 経済活動としての農業の付加価値を高める

### 振興策 7 担い手に農地を集める

#### 担い手を確保する

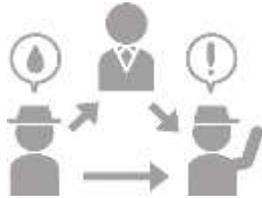


将来の地域農業の姿を話し合い、担い手へ農地の集積を進めることが重要です。

そうした環境づくりに活用できる制度などを紹介します。

#### 方法 1

農地中間管理機構を活用する



#### 方法 2

農業法人の参入を促す



### 振興策 8 コストを下げる（省力化・低コスト化）

#### 生産コストが下がる



生産基盤を強化すれば省力化が実現します。また急速に技術が進んでいるスマート農業・林業は、中山間地域での活用も期待されています。

こうした技術等について、中山間地域での活用や留意点等を紹介します。

#### 方法 1

生産基盤を強化する



#### 方法 2

スマート農業※を導入する



#### 方法 3

スマート林業を導入する



#### 方法 4

ドローンなどを活用した作業代行サービスを利用する



※スマート農業：ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化・精密化や高品質生産を推進する新たな農業のこと。

### 振興策 9 収益の上がる作物を生産する

#### 収益が上がる



獣害に強く、省力的に栽培でき、販路がある作物であれば、担い手が少ない地域でも農地を有効活用できます。

各地でチャレンジされている取組を紹介します。

#### 方法 1

収益の上がる作物に転換する



#### 方法 2

水田を畑地化・汎用化するための基盤整備を行なう



## 振興策 10 新たな収入源をつくる

### 所得が上がる



魅力的な地域資源を活かして収入を得ている集落は、来訪者をひきつけることができます。

新たな収入源としての6次産業化などの方法を紹介します。

#### 方法1

6次産業化による  
新たな事業を展開  
する



#### 方法2

地域資源を活かした食事  
や体験交流プログラムを  
提供する



#### 方法3

農泊に  
取り組む



#### 方法4

森林空間を活かした  
新たな仕事をつくる



## 事例で紹介した制度等

第5章 1 事例で紹介した制度等の概要を示す手引き本編の該当頁は以下の通りです。

資料 1-1	中山間地域等直接支払制度	第5章-3
資料 1-2	しが農業女子 100 人プロジェクト	第5章-4
資料 2-1	しがのふるさと支え合いプロジェクト	第5章-5
資料 2-2	「やまの健康」の取組	第5章-6
資料 2-3	農福連携（滋賀県の取組）	第5章-7
資料 2-4	特定地域づくり事業協同組合制度	第5章-8
資料 2-5	地域おこし協力隊	第5章-9
資料 2-6	緑のふるさと協力隊	第5章-10
資料 3-1	関係人口	第5章-11
資料 4-1	小さな拠点における多機能型の取組を持続的に行うための組織づくり	第5章-12
資料 4-2	「獣害に強い集落環境点検」実施の手引き	第5章-13
資料 4-3	近隣景観形成協定	第5章-15
資料 5-1	棚田地域振興法	第5章-16
資料 6-1	荒廃農地を中山間地域等直接支払制度協定農用地へ	第5章-17
資料 7-1	農地中間管理機構	第5章-18
資料 9-1	FOEAS（地下水位制御システム）	第5章-19
資料 10-1	農泊	第5章-20

# 参考1. 振興策別事例一覧

3つの方針の10の施策毎に方法を抽出し、該当する事例を紹介しています。  
気になる振興策の事例から具体的な取組を確認しましょう。

頁番号は手引き本編第4章

## 1 地域と関わる「人のすそ野」を拡大する

### 振興策1 農地を守る人を確保する

方法	No	事例概要	頁
方法1 集落の将来について話し合う	1	アンケートを実施し集落における持続可能な体制を話し合う	6
方法2 集落ぐるみで営農組織を運営する	2	継続のために無駄を省いて担い手を組織化	7
	3	作業負担の偏りをなくし担い手を育てる共同の体制づくり	8
方法3 人材を確保する	4	年代別グループ制による集落営農組織の多角化	9
	5	繁忙期に人手不足をカバーする人材派遣・1次産業特化型求人サイト	9
方法4 地域を支える人材を育てる	6	農業の原点から最新の農業まで習得できる環境づくり	10
	7	講習会開催で森林保全の技術を普及	10
方法5 地域農業の担い手に女性の力を活かす	8	親元就農	11
	9	独立就農	11
	10	女性役員（世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策）	12
	11	女性草刈りチームの結成（世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策）	12

### 振興策2 一緒に支える人を受け入れる

方法1 企業・団体等と連携する	12	地域貢献先を探す企業に届くボランティア受け入れ情報発信	13
	13	集落にある団体に集落の課題を伝え協働して解決を目指す	14
	14	企業がSDGsの観点から耕作放棄防止の取組を支援	14
方法2 「やまの健康」に取り組む	15	協議会を結成し人口対策、生活基盤、特産品づくりに取り組む	15
	16	8つの集落の活動団体を中心に森林資源を保全活用	15
方法3 農福連携に取り組む	17	障がい者の「働きたい」の希望をかなえ地域の課題を解決する農福連携	16
	18	ノウハウがない部分は地元が補い共に働く農福連携	17
方法4 多様な人材を活用する	19	マルチワークが可能な環境づくり	18
	20	特定地域づくり事業として労働者を派遣 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">行政</span>	18
方法5 移住者を支える仕組みをつくる	21	ターゲットを設定した移住者の受け入れ活動	19
	22	移住者側から見た地域で就農しやすい環境	20
	23	移住者側から見た地域になじみやすい環境	21
方法6 協働する人を受け入れ、思いを伝える	24	地域おこし協力隊を経て定住し地域資源活用を実践	22
	25	地域おこし協力隊で林業技術を習得し、定住して起業 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">行政</span>	23

### 振興策3 地域に関わる人を増やす

方法1 農業体験等の参加者と地域課題を共有する	26	集落全体で話し合いを重ね、大学生との連携に取り組む	24
	27	森のメープルでつながる「動きながら考えるメープル部会」	24
方法2 クラウドファンディングなどの応援者を集める仕組みを活用し地域の取組を伝える	28	ふるさと納税を活用したクラウドファンディングにチャレンジ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">行政</span>	25
	29	クラウドファンディング活用応援プロジェクトにチャレンジ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">行政</span>	25
方法3 中山間地域の魅力を発信する	30	手軽な方法で地域の魅力を発信	26

※ 行政 は、主に行政担当者向けの事例です。

## 2 豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ

### 振興策4 住み続ける条件を整える

方法	No	事例概要	頁
方法1 生活サービス機能等を集約した「小さな拠点」を形成する	31	廃校を活用し防災や医療、行政機能を兼ね備えた道の駅 <b>行政</b>	27
	32	人と人とのつながりの中で暮らしを支えるお手伝い	28
方法2 暮らしの困りごとに対処する	33	コミュニティ・カーシェアリングを導入	29
	34	住民有志で設置した集落内100円ショップ	29
	35	イノシシ侵入防止の目隠し資材(取り付け簡単!安価!効果はそこそこ)	30
方法3 獣害対策に取り組み暮らしを守る	36	サルにのんびり餌を食べさせない集落づくり	31
	37	サルの追い払いでのドローン活用の実験	32
	38	獣害に強い集落環境点検	33
	39	花植え活動で女性の参画、花見の会の開催で孫世代と交流	34
方法4 コミュニティを強化する	40	地区外在住者も自治会役員や神事の保存を担う	34
	41	隣接する新興住宅地と交流	34
	42	近隣景観形成協定を結び旧東海道沿いの景観を守る	35
方法5 美しい風景・景観を守り育てる	43	小学生に田植え稲刈り体験を提供	36
方法6 学校と連携して地域の意識を高める	44	学習田として活用	36

### 振興策5 近隣集落と連携する

方法1 共通する課題で近隣集落と連携する	45	学区内の担い手で法人を立ち上げ	37
	46	7つの法人が連携し集落営農法人の弱みを補完	38
	47	周辺の4つの集落で連携体制を構築	38
方法2 日本型直接支払制度の取組を広域化する	48	周辺の4つの集落営農で連携体制を構築し広域化	39
	49	土地改良区単位で広域化 <b>行政</b>	40
	50	「市」の単位で広域化 <b>行政</b>	40
方法3 学区単位でコミュニティ組織をつくる	51	小学校区ごとに地域運営組織(自治振興会)の立ち上げ <b>行政</b>	41
方法4 棚田地域振興法の仕組みを利用する	52	指定棚田地域の指定を受け活動を展開 <b>行政</b>	42

### 振興策6 農地の使い方を変える

方法1 作目の転換：山菜等を植える	53	耕作放棄地でヨモギを栽培	43
	54	耕作放棄地でエゴマを栽培	43
方法2 作目の転換：果樹を栽培する	55	棚田の耕作放棄地でクルミ栽培	44
	56	柿の耕作放棄地でオリーブ栽培	44
方法3 農地を獣害対策の緩衝帯・集落景観用地として活用する	57	住民の健康づくりの場とすることで鳥獣害の緩衝帯形成	45
	58	田園の集落景観を維持する空間として保全管理	45
方法4 復旧が困難な農地の活用を図る	59	荒廃農地の活用	46

※ **行政** は、主に行政担当者向けの事例です。

### 3 経済活動としての農業の付加価値を高める

#### 振興策7 担い手に農地を集める

方法	No	事例概要	頁
方法1 農地中間管理機構を活用する	60	個別経営体と集落営農型農業法人による話し合いで農地の集約化	47
	61	集落営農型農業法人の設立による集積	48
方法2 農業法人の参入を促す	62	観光名所の景観維持を目標に営農環境を整え担い手確保	49

#### 振興策8 コストを下げる(省力化・低コスト化)

方法1 生産基盤を強化する	63	大区画化と用排水道路整備	50
	64	傾斜が急で湾曲の大きい地形での等高線区画の採用	51
	65	守る農地を決め軽トラックが通れる道づくり	51
方法2 スマート農業を導入する	66	GPS 機能付き田植え機を導入	52
	67	ラジコン草刈り機を導入	52
	68	ドローンによる薬剤散布	53
	69	中山間水田農業に有望なスマート農業技術	54
方法3 スマート林業を導入する	70	作業工程毎に見るスマート林業等の進化	55
方法4 ドローンなどを活用した作業代行サービスを利用する	71	スマート農業支援サービス育成プログラム	56

#### 振興策9 収益の上がる作物を生産する

方法1 収益の上がる作物に転換する	72	ユウカリ栽培にチャレンジ	57
	73	マコモダケ栽培にチャレンジ	58
	74	リンドウ栽培にチャレンジ	58
方法2 水田を畑地化・汎用化するための基盤整備を行なう	75	水田の地下水位を制御し田畑転用が容易に「FOEAS」	59

#### 振興策10 新たな収入源をつくる

方法1 6次産業化による新たな事業を展開する	76	市の花「ムラサキ」を栽培し化粧品に加工して販売	60
	77	地域資源のソバ・ダイコン・ヨモギを栽培し加工して販売	61
	78	果樹を育てジャムに加工して販売	62
	79	地元の産物を漬けものに加工して販売	62
方法2 地域資源を活かした食事や体験交流プログラムを提供する	80	在来種の「伊吹そば」等を土日祝限定で提供	63
	81	カプトムシを育てふれあい体験を提供	64
方法3 農泊に取り組む	82	自身の旧家を改修し囲炉裏の体験を提供	65
	83	移住者が借家を改修し味噌づくり体験などを提供	66
方法4 森林空間を活かした新たな仕事をつくる	84	木の駅プロジェクトで山資源をお金に変える	67

# 参考2 地域での話し合いで活用できるシート

シート①

中山間地域振興の手引き

## 1. 地域と関わる「人のすそ野」を拡大する分野における地域の現状を診断

No	項目	取組の程度 (該当するものに○)			得点
		取組の程度0 (0点)	取組の程度1 (1点)	取組の程度2 (2点)	
1	集落での話し合い、頻度	集落での話し合いはしていない	年に数回は実施	月に1回程度実施	月に数回実施
2	農業・農村に関する組織の構成 (農業組合など)	組織がない	耕作農家のみで構成	耕作農家と土地持ち非農家で構成	耕作農家、土地持ち非農家に加え非農家も参加
3	農業の担い手	担い手が少ない	担い手が少ない	現状維持できる担い手がある	現状維持できる担い手がある
4	女性の活躍	あまりない	女性が会合に参加している	女性が主体になった取組がある	女性の(農業組合等)役員、女性就農者がいる
5	企業・大学・NPO 法人等多様な主体と集落との関わり	関わりはない	関わりについて話し合ったことがある	関わりについて検討している	関わりが高く、活動が定着している
6	森林保全の取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
7	障がい者の雇用や福祉事業所との連携等の取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
8	都会から定住を進める取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
9	農業の後継者を育成する取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
10	地域おこし協力隊の活用等外部の人材の受け入れ	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
11	フェイスタックやかわら版など地域の魅力の発信	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
12	たんぼの事業、やまの事業等 農業体験学習受け入れ	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
13	棚田ボランティア等 農業ボランティア受け入れ	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
14	その他外部の人材を活用する取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
合計点 (42点中)					

2. 豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ分野における地域の現状を診断

No	項目	取組の程度 (該当するものに○)			得点
		取組の程度0 (0点)	取組の程度1 (1点)	取組の程度2 (2点)	
		取組の程度3 (3点)			
1	近隣集落との共同の拠点(スーパー、病院など複数年サービス機能)を設置。	以前からない	取組について話し合ったことがある	設置の検討をしている	既に設置されている
2	高齢者への福祉活動コミュニケーションサロンなど集落内の談話の場	実施していない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
3	獣害対策	被害を放置	被害を認識しているが、対策ができていない	集落環境点検等を通じて対策を検討している	防護柵を整備するなど、集落ぐるみの被害対策を実施している
4	伝統的な祭り・文化・芸能の保存	実施していない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
5	集落内の環境美化活動・実施	実施していない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
6	若者、女性など地域住民の草刈、泥上げ等共同活動への関わり	関わりはない	関わりについて話し合ったことがある	関わりについて検討している	関わりが高く、活動が定着している
7	農道・用排水路法面の草刈、維持補修	実施していない	耕作者個々に任せている	集落の共同活動として年々1回～数回実施	複数回の活動に非農家や若者も参加している
8	用排水路等を長持ちさせるための点検・補修	実施していない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
9	子供達等、次世代育成の取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
10	近隣集落と連携した地域づくり活動などの取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
11	農業機械オペレーターの融通など営農面での近隣集落との連携・統合の検討	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
12	地域の利便性向上(交通・買い物など)のための取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
13	作目転換等耕作放棄地を発生させない取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	実施している、もしくは放棄地発生の見込みはない
14	耕作放棄地の有効利用	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している、もしくは耕作放棄地がない
合計点 (42点中)					

3. 経済活動としての農業の付加価値を高める分野における地域の現状を診断

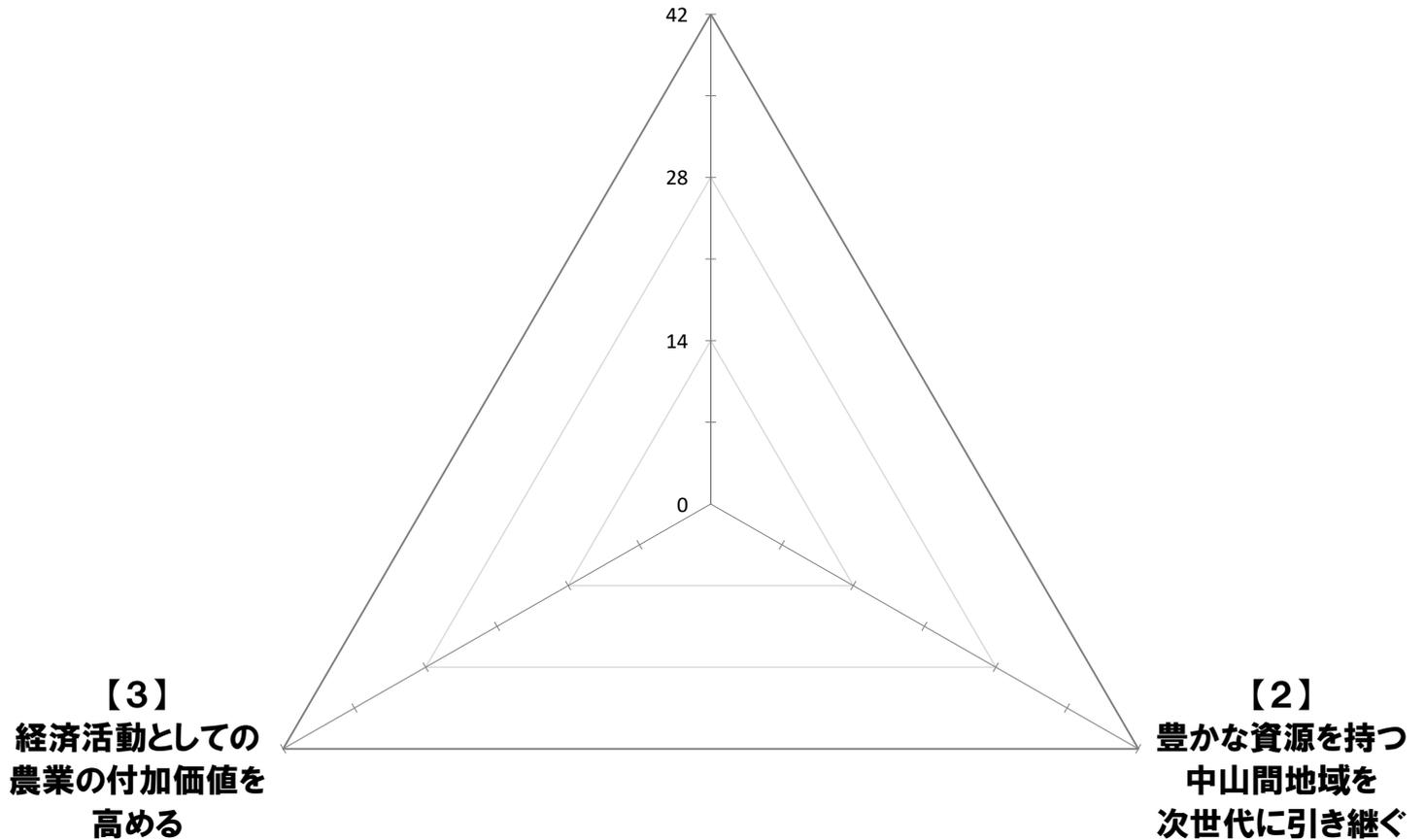
No	項目	取組の程度 (該当するものに○)			取組の程度3 (3点)	得点
		取組の程度0 (0点)	取組の程度1 (1点)	取組の程度2 (2点)		
1	農地集積にあたり、農地の受け手の選定に対する地主の意識	農地集積の予定はない	農地の受け手は縁故者に限られる	農地の受け手の選定にはこだわらない	農地の受け手の選定には、こだわらず、集積を進めている	
2	耕作者間での利用権を交換する等、担い手ごとのエリア分け	エリア分けができていない	話し合ったことがある。	部分的にエリア分けが出来ている	既に、エリア分けが出来ている	
3	営農組合等の組織化	組織化していない	組織化について話し合ったことがある	組織化を検討している	既に組織化済み	
4	(水路更新、畔抜き等) 担い手が耕作しやすい条件整備	取り組んでいない	実施について話し合ったことがある	実施を検討している	既に条件整備済み	
5	ほ場整備等生産基盤の強化	取り組んでいない	実施について話し合ったことがある	実施を検討している	既に基盤整備済み	
6	暗きよ排水等乾田化	取り組んでいない	実施について話し合ったことがある	実施を検討している	既に実施済みもしくは乾田化の必要がない	
7	自動田植機、自動草刈機、ドローン等スマート農業 <sup>※1</sup> 、林業の導入	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	導入を検討している (農家がある)	取組済み (取り組んでいる農家がある)	
8	伝統野菜の作付	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している (農家がある)	取組済み (取り組んでいる農家がある)	
9	「環境こだわり農産物」、棚田米等ブランド化の推進	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している (農家がある)	取組済み (取り組んでいる農家がある)	
10	転作の有無 (ソバ、麦、大豆等)	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している (農家がある)	取組済み (取り組んでいる農家がある)	
11	水田での野菜・果樹等高収益作物への転換	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している (農家がある)	取組済み (取り組んでいる農家がある)	
12	農産物加工、直売所等の6次産業化の取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している (農家がある)	取組済み (取り組んでいる農家がある)	
13	体験メニュー提供や、農家レストラン農泊などの取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している (農家がある)	取組済み (取り組んでいる農家がある)	
14	間伐材のチップ化など、その他の地域資源を活用した取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している (農家がある)	取組済み (取り組んでいる農家がある)	
	合計点 (42点中)					

※1：ドローンは、人間による操縦がなくても自律的な飛行が可能な機器を指します

※2：スマート農業：ロボット、AI、IoT等の先端技術を活用したスマート農業技術の研究開発、社会実装に向けた取組等をご紹介します。

シート①' 地域診断結果記録(レーダーチャート)

**【1】**  
**地域と関わる**  
**「人のすそ野」を拡大する**



診断結果は診断した取りごとに色分けして記入することで、地域活動の変化を確認できます。

色	診断年度

## 地域資源発掘シート

資源タイプ		具体的資源例	集落にある資源の名前 (例にある場合は○)
自然資源	野生生物	オオサンショウウオなど希少種、ホタルなど身近な生物、イノシシ、シカ など	
	景観	棚田、山村景観、並木 など	
	水資源	生水（しょうず）、湧水、河川、山水、滝、水草（肥料・花は水面飾り憩いの場に）、地下水、雪解け水、湖沼 ダム、ため池 など	
	植物	森林（木材から家・家具・器など）、竹林（竹）、低木・草（和紙・籠など）花 など	
	エネルギー資源	太陽光、風力、水力、地熱 など	
人工資源	伝統野菜	山田ねずみ大根、下田なす、杉谷なすび、杉谷とうがらし、水口かんぴょう、鮎河菜、日野菜、北之庄菜、豊浦ねぎ、小泉紅かぶら、泰荘のやまいも、赤丸かぶ、伊吹大根、万木かぶ、近江かぶら、坂本菊、守山矢島かぶら、弥平とうがらし、大藪かぶら など	
	加工品（農林水産）	あまんぼう（干し柿）、むべ加工品、山椒の佃煮、ふきのとう味噌、政所茶（新茶まつり）、栃もち、ミョウガ漬物、ナスとキュウリ畑漬け、山菜の卵の花漬け、山菜の塩漬け、チョロギの甘酢漬け、糍・味噌・酒などの農産物加工	
	伝統技術	藁細工、ヨシ細工、近江真綿、木地師、高島扇骨、信楽焼、穴太衆積み など	
	農地	田畑（ほ場整備済）、田畑（未整備）、耕作放棄地	
	農作物	米、麦、大豆など土地利用型作物、野菜、果樹 など	
	山村資源	材木、薪炭、間伐材、山菜、きのこ、木工品、木質ペレット など	
	体験・交流	レクリエーション施設、体験・交流施設、体験農場 など	
	団体	地元企業、社会福祉法人、大学、NPO法人、地域運営組織 など	
	建造物	シン垣、山城跡・鉾山跡などの遺構、古民家、空き家、公民館、直売所、古い建築物、街並み、廃校、公園、ずい道、獣害防止柵 など	
	中間生産物	家畜糞尿、堆肥、下草、落葉、廃棄農作物 など	
	観光地	比叡山延暦寺、琵琶湖バレイ、多賀大社、忍術村温泉地 など	
人的資源	技術資源	専門技能・技術者、狩猟者、モンキードッグ、特許、商標権、ノウハウ、大学、高校 など	
	関係資源	地域ネットワーク 世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策取組組織、中山間地域等直接支払制度取組組織 など	
	担い手	農業後継者、認定農業者、集落営農組織 新規就農者 など	
	外部人材	地域おこし協力隊員、緑のふるさと協力隊員、集落支援員、特定地域づくり事業による派遣労働者 など	
	若い世代	若い定住者（Iターン・Uターン含む）、女性農業者（候補含む） など	
	出身者	他出子（集落から出て行っている子ども）、郷土出身著名人、歴史人物 など	
社会関係資源	共同扶助	高齢者の見回り活動など集落の助け合い など	
文化資源	伝説	天女の羽衣伝説、三上山のムカデ伝説 など	
	神事	オコナイ、安曇川流域のシコブチ信仰、黒川の太鼓踊り、熊野神社の弓取り神事、朽木針畑の六斎念仏 など	
	祭事	近江中山の芋競べ祭り、すし切り祭り、七川祭、竹梅祭 など	
	風習	虫送り、郷土料理 など	
	芸能	能、和太鼓 など	
	歴史	寺社・仏閣、遺構・遺跡、仏像など文化財 など	

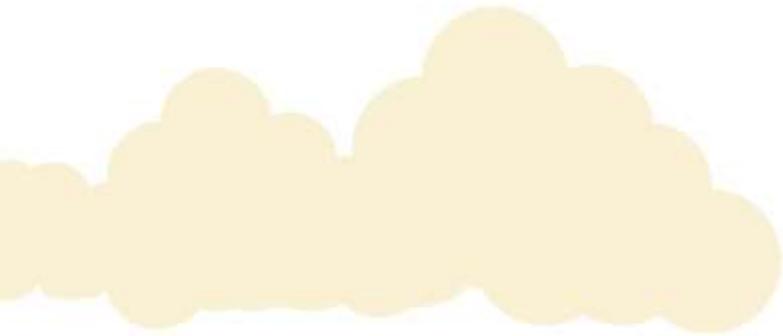
課題の抽出・「こうなりたい」シート

テーマ	診断 得点	課題	こうなりたい
<p>地域に関わる 「人のすそ野」 を拡大する</p>	<p>／ 42</p>		
<p>豊かな資源を 持つ 中山間地域を 次世代に 引き継ぐ</p>	<p>／ 42</p>		
<p>経済活動 としての 農業の 付加価値を 高める</p>	<p>／ 42</p>		

## 振興策の検討シート

実践する振興策	
具体的内容	
活用する資源	
実行するために必要なこと	
実施体制・ネットワーク	
活用できる制度	
継続性 スケジュール	
事業費 (費用項目)	
目標	
参考になる事例	
行政や外部有識者等の意見	





発行：滋賀県 農政水産部 農村振興課  
令和4年（2022年）12月

